

平成22年 5月26日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730229
 研究課題名（和文） 中華民国期、内モンゴルにおける統治システムの再構築－熱河省の土地制度改革をもとに
 研究課題名（英文） Land, nation and social authority in Inner Mongolia: the land reform in Rehe Province in Republican era.
 研究代表者
 広川 佐保（HIROKAWA SAHO）
 新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
 研究者番号：90422617

研究成果の概要（和文）：

辛亥革命以降、内モンゴルの伝統的制度は揺らぎを見せ、また中華民国政府（北京政府）は盟旗地域に省を設立しようとしていた。これに対し、モンゴル王公たちは省設置に反対するものの、内モンゴル南部には熱河省が設立され、土地制度改革（経界事業）と行政機構の再編が行われた。このさい、熱河省は漢人農民に土地所有権を与えようとしたため、その結果、モンゴル王公の弱体化が進んでいくこととなったのである。

研究成果の概要（英文）：

After the Xinhai revolution, the traditional rule of Inner Mongolia became unstable, and the Republic of China tried to establish the provinces (省) in the League-banner (盟旗) area. Although some of the Mongolian Wanggong (王公) opposed to establish the provinces, the Rehe province was established in southern Inner Mongolia, and they undertook land reform and administrative reform. As a result, Mongolian Wanggong lost their administrative authority of Rehe province, at the same time, Han Chinese peasants acquired the cultivating rights in League-banner area.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：熱河、張作霖、内モンゴル、ジリム盟、土地制度、蒙蔵院

1. 研究開始当初の背景

近年、中国内陸部における西部大開発や環境問題への関心から、内モンゴル社会経済史研究へ注目が集まりつつある。これに関して

現段階では以下のような方法で研究がさかんに行われている。その第一は、(1) 内モンゴルの土地問題や開発・砂漠化の問題を中国の国家統合の立場から分析するものである。

これに対し、第二の視点として挙げられるのは、(2) 内モンゴルにおける土地開墾や農耕化の問題が、中央支配の「周縁」へ波及の中で生み出されたことを指摘する、統治される側の視点からの研究である。

以上の視点はいずれも重要であるものの、前者は統治体制に、後者は実態研究に、それぞれ偏る傾向があるため、両者を総合的に検討することは難しかった。これに対し、本研究では、土地制度研究を軸として、支配側の論理と社会からの対応を同時に検討する。これにより、為政者側の土地政策の内容やその系譜、及び土地権利関係のみならず、これに対する地域社会からの対応や社会変化の解明を目指した。また、近代内モンゴルにおける国家と社会の関係をより多角的に把握するためには、満洲国以前、すなわち清朝崩壊以降から民国期までの土地制度改革の問題について検討することが不可欠である。こうした観点から、本研究では特に内モンゴル熱河地域の土地制度改革を手がかりとして、国家の統治と地域社会のありかたを相互に関連付けて、社会の変化を分析することを試みてきた。

2. 研究の目的

19世紀から20世紀にかけて、台湾、朝鮮、中国東北地域など東アジア各地域で実施された土地制度変革は、それぞれの地域において新たな社会変容を生み出す原動力となった。こうした観点に立ちながら、本研究では漢人とモンゴル人の統治機構が重層化する中国内モンゴル南部の熱河地域を研究対象とし、以下の研究課題に取り組んできた。まず(1) 熱河地域において、中華民国政府によって統治システムの再構築が進められるなかで、熱河省設立(1928年)とその機構の拡大に着目し、これらの地域が中華民国のシステムに接合される過程を明らかにする。

つぎに(2) こうした中華民国の統治システムの浸透を分析するために、熱河省政府など地方政府が実施した土地制度改革研究に着目する。具体的には、1920年代までに中央政府や地方政府が、省・県の設置や諸政策を通して、内モンゴル熱河地域に、いかに支配を広げようとしたのか、そしてそれに対してモンゴル側はどのような対応をしたにか、国家の支配と地域社会の関係から検討する。

以上の観点から、1920年代後半以降、中華民国の統治システムの確立とともに、熱河地域において実施された土地制度改革の社会経済史的な位置づけを明らかにするとともに、内モンゴル熱河地域の社会変化(社会制度の変化)について解明することを目的とする。

3. 研究の方法

1920年代後半から1930年代初頭まで、熱河省地域で実施された地方政府の諸政策と地方の社会・経済的状況を把握するために、以下の方法で調査を実施した。

2008～2009年、中国、台湾の資料館において、清末、および中華民国期の熱河省・奉天省および内モンゴル地域のアーカイブ資料を調査・収集した。まず台湾の国史館では、1920～30年代の内モンゴルの档案資料を収集し、さらに遼寧省档案館では、熱河省政府の档案を調査した。またこれと併せて内モンゴル自治区フフホト市において、内モンゴル大学の研究者と意見交換を行った。

以上のような資料調査と収集した史料に加え、民国期の定期刊行物(マイクロ資料)や関連書籍を購入し、その整理と分析を進め、熱河省における土地制度の変化と支配体制の変化について検討を行った。

4. 研究成果

中国東北、ならびに熱河省の社会経済史的転換、及び土地政策(経界事業)の展開に関して、明らかになった諸点は以下の通りである。

(1) 中華民国成立以降、内モンゴルでは従来と同じく、盟旗制度が保持され、モンゴル王公が各旗を統治する体制がとられたが、少しずつ変化が生じつつあった。また1920年代、内モンゴル地域では、旧来の盟旗制度と省県の制度が併存し、制度の運用を巡って蒙・漢の間で対立が深まっていた。

こうした状況の中で、統治者であるモンゴル王公の意見・立場は異なり、統一した行動をとれずにいた。例えば王公の間でも意見が異なり、伝統的な盟旗制度を維持しようという立場と、盟旗制度の改革を進めようとする立場が見られた。なかでも熱河省(ジョーオダ・ジョソト盟)とジリム盟のモンゴル王公の対立が顕著となっていたが、これらの背景には、熱河省とジリム盟の社会経済的差異、すなわち開墾状況や北京政府との距離などとの関係があった。例えば1924年に開催された蒙蔵院主催「蒙事会議」でも北京政府と密接であった熱河省のモンゴル王公の発言権が目立ち、ジリム盟の王公との対立が見られた。こうしたモンゴル人王公の足並みの乱れは、モンゴル人勢力のさらなる不統一を招いたと考えられる。以上のように、中華民国期、内モンゴル各地では政府の主導のもと、社会制度の変化が図られていったのである。

(2) つぎに熱河省をモデルとして、地域社会の統治体制の再編について見てゆくことにしたい。中華民国成立後、熱河省(ジョーオダ・ジョソト盟地域)には、1914年熱河特別区が設置され、1928年には熱河省が成

立することとなった。また各旗には入植者を統治するための県が設置されるなど、統治体制の変革が図られ、盟旗制度は省県制度に組み入れられようとしていた。

しかし、これら熱河地域では、民国期に入るまで、清朝時代の統治機構が踏襲され、モンゴルの伝統的統治体制（盟旗制度）が、弱体化しながらも維持されていた。また、モンゴル人と入植者である漢民族の間でも、伝統的な土地権利関係が保持されていた。つまりモンゴル地域は「蒙地（旗の土地）」の売買が禁止されており、土地所有権はモンゴル側（旗、王公、寺廟、モンゴル人個人）にあり、漢人農民は「耕作権」を持つだけであった。

(3) しかしながら、1928年の熱河省設立以降、熱河省政府は、土地所有権があいまいな同地域において、省財政の確立と土地所有権の確立を目指して、土地制度改革（経界政策）を開始した。これらは、省内における旧来の支配体制を再編する意味を持ち、経界政策は、漢人統治機構である県政府主体で実施されたのであった。また実際の土地調査の過程でも、モンゴル側の主張の多くが無視され、旗の権限が次々と侵害される場合が多々生じていた。このように、熱河省の土地改革（経界政策）の過程では、モンゴルの各旗・モンゴル人の土地所有権が否定され、逆に漢人農民の権限が強まる傾向がみられたのである。また、経界政策の過程でモンゴル側と漢人入植者が土地所有権を巡って対立する場合や、調査員の不正も頻発していた。こうした熱河省の政策に対し、モンゴル王公は強く反発し、中央政府に対して改善を求めた。これら経界事業は、日本軍の中国東北・熱河省侵攻によって、ようやく停止されたのであった。

このように熱河省の土地制度改革は、現地の秩序を大きく混乱させた。また、こうした事業の展開のなかでモンゴル側の土地に対する権利意識を強めさせる作用ももたらした。つまり熱河省経界政策はモンゴルから漢への支配体制の転換点を生み出す転換点でもあったのである

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

①広川佐保「1920年代、内モンゴルにおける制度変革とモンゴル王公—北京政府、張作霖との関係から—」『東洋学報』第91巻第4号、2010年3月、査読有り、27-52頁。

②広川佐保「民国期、内モンゴルにおける土地契約文書について—ハラチン右旗を中心

に—」『環東アジア研究センター年報』第5号、2010年2月、査読無し、78-81頁。

③広川佐保「『大陸新報』社説一覧（1939～1945年）[解説]」『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』第21号、2009年12月、査読無し、81-106頁。

④広川佐保「中華民国期における熱河省の土地制度改革について—モンゴル・漢関係の変化—」岡洋樹編『東北アジア研究シリーズ：東北大学東北アジア研究センター・シンポジウム 内なる他者—周辺民族の自己認識のなかの「中国」—モンゴルと華南の視座から—』10、2009年3月、査読有り、101-116頁。

⑤広川佐保「満洲国のモンゴル語教育政策についての一考察」『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』第20号、2008年12月、査読無し、38-46頁。

⑥広川佐保、「近代内モンゴル社会の変革と東アジア—中国、日本との関係から見る」『歴史評論』第697号、2008年5月、査読有り、70-82頁。

〔学会発表〕（計3件）

①広川佐保「民国期の土地文書の変化—ハラチン右旗を中心に—」『国際ワークショップ：東北アジアにおける社会的基盤の形成』、2009年11月14日、新潟大学。

②広川佐保「『蒙古横断』の〈現在〉」講演会「新たな〈満蒙〉像への挑戦—日本大学文理学部所蔵画像資料の可能性—」2009年10月17日、日本大学文理学部3号館。

③HIROKAWA Saho The Land Policy and Its Impact - A Case of Eastern Inner Mongolia 1930's-1940's ,Global Order from the Perspective of Literature, Media, Archives-Focus on North East Asian Society,2008.6.National Archives Implementing Agency of the Government of Mongolia, Ulaanbaatur.

〔図書〕（計4件）

①広川佐保「白契彙集（一）」、「白契彙集（続四）」、「前綏遠墾務機関沿革表／系統表／成立呈准公文及組織表」「磯野誠一と西北研究所」学習院大学東洋文化研究所編『知識は東アジアの海を渡った—学習院大学コレクションの世界—』、丸善プラネット株式会社、2010年、122-125頁。

②HIROKAWA Saho "The Land Policy and Its Impact —A Case of Eastern Inner Mongolia 1930's-1940's " Imanishi Junko, Ulziibaatar Demberel, Husel Borjigin, A New Global Order in North East Asia: Proceedings of the International Symposium on Global Order from the Perspective of Archives, History, Literature, and Media— Focus on North East Asian Society —, 風響社, 2009, p.p.99-104.

③広川佐保「日本の満洲・内モンゴル支配」境田清隆・佐々木史郎・岡洋樹編『新世界地理 第2巻 アジアⅡ東北アジア』、朝倉書店、2009年、161-170頁。

④広川佐保『『藩部』と『内地』—20世紀前半の内モンゴル』飯島渉・久保亨・村田雄二郎編『シリーズ 20世紀中国史』第1巻、東京大学出版会、2009年、165-183頁。